

地震・雷・火事・親父？

スーパーマンこと 松崎 昂 英 ①

今年は、能登半島の大地震というとんでもない幕開けとなった。

わしの会社は、輪島市と珠洲市とにお得意様が2社ある。井戸の掘削ではなく、能登半島は地滑りの災害が多く、その対策工事を行っている。

地震発生から6日後に、ようやく連絡が取れた。

命の水である飲料水は道路が寸断されているので、ヘリコプターで運んで載っているから助かっているが、町は壊滅状態で生きているのが精一杯・・・ということだった。

2月初め、一カ月振りに電話が入った。道路が開通して、飲料水は給水車でどうにか間に合っているが、大量に必要な生活水は全く間に合わない。被災者の中にはことしになってから1回も入浴や洗濯をしていない人が多数いる。

この苦しみは、実際に被災した人でないと分からないのでは？・・・と、まさに悲痛な叫びである。

標題の言葉は、いつ頃から言われているか不明？現代では通用しないのではなかろうか・・・と思っている。地震・原発・火事・通り魔あたりが妥当のように思う。特に親父についてはランク外” 親父の威厳が全く感じられない世の中になったのはさびしいかぎりである。

1月27日、新潟日報の朝刊トップに衝撃な記事が掲載された。

今回の地震は、珠洲市から福井県方面に延びる二つの活断層と、佐渡沖方面に延びる活断層（合計四つの活断層）が、ほとんど同時に破壊されて大地震が発生した。

調査した結果、今回の地震で破壊されないで割れ残っている活断層が、佐渡沖方面に二つ残っている。

二つの活断層が連動してM7クラスの地震が発生すると、佐渡を含めた新潟県の海岸沿岸部に、最大3メートルの津波が10分以内に押し寄せる恐れがある。

発表したのは、日本海の地震に詳しい東京大学地震研究所の佐藤名誉教授（構造地質学者）である。

さらに2月の12日の朝刊に、京都大学防災研究所の見解が発表された。

最初に福井県方面に延びる二つの活断層の破壊が始まり、わずかその13秒後に佐渡沖ほうめんに延びる活断層の破壊が始まった。

二つの地震は、いずれもM7.3クラスの規模であったが、ほとんど同時に発生したことによって、エネルギーが約2倍のM7.6の大地震なった可能性がある。

マグニチュード0.2増えると、エネルギーが2倍になり、1.0増えると約30倍になる。地球の1日は、人間の1年に相当すると言われている。

昨年5月5日に、珠洲市を震源地とする震度6強の地震が発生した。